

支 部 長 挨 拶

6月6日に開催されました北海道支部の平成19年度第1回理事会において、濱崎支部長の後任として、第25期後半の支部長をお引き受けすることになりました。北海道支部の発展のために精一杯努力したいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今や気象学は、観測技術の高度化、観測システムの整備・多様化、あるいは処理技術の発達によって研究環境が整いつつあり、グローバルな課題から、メソスケールの課題まで、新たな展開が期待されています。これら様々なスケールの現象は、地上付近、社会生活の中で実感され、地球温暖化に伴う気候変動、竜巻や突風、局地的な大雨など気象防災の観点で気象学の発展に対する社会の期待も大きなものとなりつつあります。気象そのものの研究、現象の解明もさることながら、地域において発現する気象現象を見つめる点も支部の存在理由のひとつであると考えます。



こうした中、気象学会の会員数は全国的に見て減少しており、北海道支部も例外ではありません。このことは、社会とも密接な関わりあいを持つ重要な学問分野の研究基盤が弱体化していることを意味し、我が国の防災気象にとっても由々しき問題となってきます。

このことに対しては、大気科学に興味を抱かせる施策、大学や大学院などの教育制度のあり方、研究者の就職・雇用問題と研究環境の整備など幅広い検討、施策が重要と考えられますが、支部においてもこれらを下支えする活動や提言が求められていると思います。

北海道支部では、これまで気象学会の目的である「気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内および国外の関係学会と協力して学術文化の発達に寄与すること」に基づいて事業を進めており、去る7月31日と8月1日には札幌市青少年科学館との共催で、第25回気象講座「新しい気象」を開催しました。講座には31名が受講し、そのうち13名が2回以上の受講で、中には参加回数22回という熱心な受講者もいました。

また、10月14日から16日にかけて5年ぶりに気象学会秋季大会を、北海道大学において開催します。支部では実行委員会を作り、鋭意その準備を進めているところですが、多くの方にシンポジウムや研究発表に接して頂き、会員の拡大を図りたいと思います。これを機会に、気象予報士会との関係を築き、少しでも多くの方々が自然現象や気象に興味を示して頂けるよう場を設け、地球科学分野の裾野拡大に努めたいと考えております。

学会活動の発展のために、今後とも会員の皆様の、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(社) 日本気象学会北海道支部
支部長 岡野 誠
(札幌管区気象台長)